



Harenowa Magazine

——きらめくステージ、とくべつな夜



[特集1] インタビュー  
劇作家フェスティバル2025  
『げきじゃ!』がやってくる!

- 特集2 イベントピックアップ  
夏休みに集え!子どもと舞台芸術を楽しもう
- 特集3 対談  
河合穂高×田辺剛  
夜の森が映し出す不安と救い 「黄色の森」が描く劇世界

# 『げきじゃー!』がやってくる!

劇作家フェスティバル2025



1. 2019年大分大会スペシャルリーディング『痕跡(あとあと)』/2. 2019年上田大会企画『劇場と仲良くなって知ってみよう』/3. 2019年上田大会企画『読み聞かせワークショップ『読み聞かせを演劇してみよう』』

1994年から始まった日本劇作家大会では、全国の劇作家たちが集い、市民とともに語り、創る喜びをわかちあってきました。コロナ禍による中断を経て、今回、「劇作家フェスティバル」として再出発!岡山開催への思いや見どころを、日本劇作家協会会長の瀬戸山美咲さんに伺いました。

【聞き手】守安涼 / 【構成】黒部麻子



劇作家協会は1993年に発足しました。全国の劇作家と交流したいという思いから、その翌年に始まったのが劇作家大会です。さまざまな地域とつながって、規模も大きくなっていき、2019年には大分と上田で2回行われました。劇作家どうしの交流だけでなく、開催地域の市民の方に開かれたイベントを目指してやってきました。劇作家というのは、ちょっと孤独な仕事です。各現場に一人しかなくて、稽古が始まる前に一人で作業するという仕事なので、何かつながりが持たないという思いがありました。

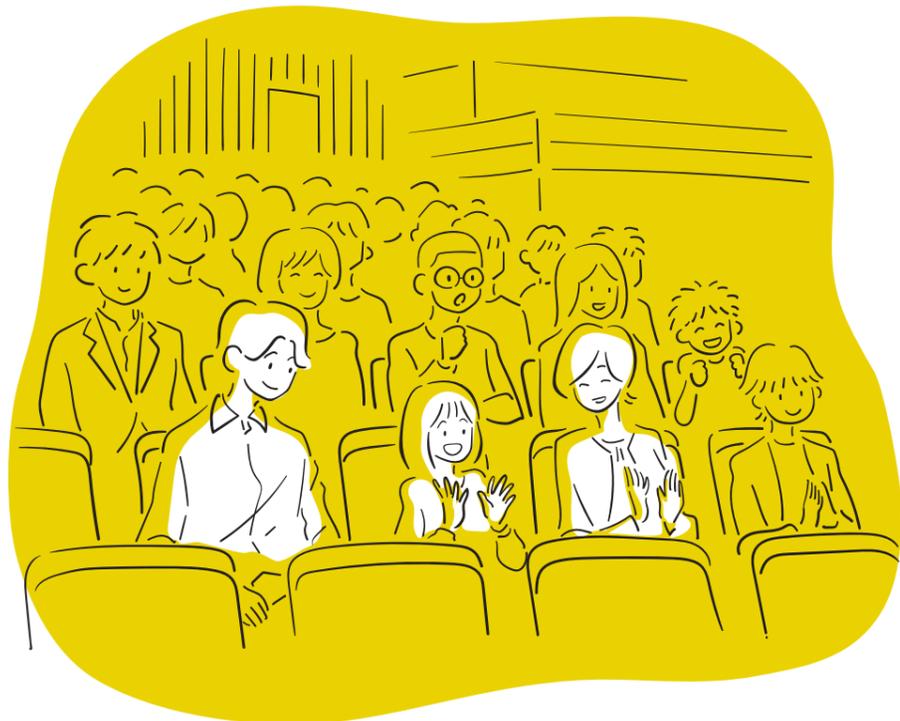
コロナ禍で中断していましたが、今回ハレノワさんでというお話をいただいて、もう本当に嬉しくて。ハレノワが2023年にオープンしてから、たくさんさんの劇作家が関わっていて、みんなにとって親近感のある存在です。ハレノワという名前、東京でも本当によく聞くんです。

今回、「劇作家フェスティバル」という名前にしたのは、参加しやすい空気をつくりたいと思ったからです。「大会」というと専門家だけの集まりのようなイメージもあるので、誰でも気軽に参加できるような名前にしました。

劇作家大会は、コロナ禍による中断を経て、今回6年ぶりの開催になります。今回から名前も「劇作家フェスティバル」に変わりますね。

## CONTENTS

- 3 特集1 インタビュー  
劇作家フェスティバル2025  
『げきじゃー!』がやってくる!
- 6 特集2 イベントピックアップ  
夏休みに集え!  
子どもと舞台芸術を楽しもう
- 8 特集3 対談  
河合穂高×田辺剛  
夜の森が映し出す不安と救い  
「黄色の森」が描く劇世界
- 10 ハレノワダイアログ [第6回]  
NYから牛窓へ拠点を移し「観察映画」をつくり続ける  
話し手: 映画作家 想田和弘
- 12 イベント開催レポート
- 14 主催事業のご紹介・チケット購入案内





瀬戸山 美咲

劇作家・演出家・ミナモト主宰。2016年『彼らの敵』(作・演出)で第23回読売演劇大賞優秀作品賞を受賞。2020年『THE NETHER』ほかの成果で第70回芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞したほか、『スラムドッグ\$ミリオネア』、『ザ・ビューティフル・ゲーム』で第48回菊田一夫演劇賞を受賞するなど、その後も数多くの賞に輝く。2022年3月より日本劇作家協会会長をつとめる。近作にミュージカル『ボニー&クライド』(上演台本・演出)、『う蝕』(演出)、『檜山節考』(上演台本・演出)など。

Here comes "Gekija"

日本劇作家協会  
劇作家フェスティバル2025  
「げきじゃ!」

10月31日(金)~11月3日(月) ハレノワ内  
料金▶公演ごとに異なる  
お問合せ▶劇作家フェスティバル「げきじゃ!」事務局  
TEL 050-1724-4180

「2・5次元舞台」といって、アニメやゲームを原作にした演劇を書いている作家もたくさんいるのですが、今回そういうものに出演している俳優さんに、あえて古典の戯曲を読んでもらうような企画も考えています。ほかに、聴覚・視覚障がいのある方に楽しんでいただくための字幕や音声ガイドを作る体験を一緒にさせていただくという企画もあります。それから、今演劇界でもハラスメントが問題になっていますが、「フォーラムシアター」という形で、実際にちょっとした劇を演じて、その中でハラスメントを見つけたらお客さんが手をあげて介入してもらおうという体験型企画も考えています。

語り合うシンポジウムや、お子さんにも楽しんでいただける企画もあります。

――本当にいろんな人が、それぞれに楽しめそうですね。

――瀬戸山さんが関わっている企画もありますか？

数にしたら20前後になると思います。そのうち岡山発信の企画が3つあります。1つは角ひろみさん企画の「その場で方言でリーディング&戯曲研究トーク」。熊本弁で書かれた戯曲を、岡山の言葉で読んでみるという企画です。2つめは、河合穂高さん企画の「異分野融合で作る新しい演劇と創造の試みについて」。河合さんご自身が劇作家であり癌研究者でもいらっしゃるのですが、様々な分野と演劇がつながる可能性を、ゲストを呼んで行うシンポジウムです。3つめが、菅原直樹さん企画の「劇作家を通してみる日本現代演劇史」。マキノノゾミさん、平田オリザさんに登壇いただいて、1960〜90年代の日本演劇史を掘り下げます。

――今回、全4日間の中で、どんなプログラムがあるのでしょつか？

これはたしか、運営委員長の角ひろみさんがアイデアをくださったと思います。みんなで打ち合わせしていた時に、うらじゃの話になって。うらじゃに倣って「〇〇じゃ」にしたなら、岡山の方にお祭りのイメージを持っていただきやすいかなということで、シンプルに「げきじゃ!」になりました。本当に楽しいタイトルですよ。

――「げきじゃ!」という副題もついています。とてもキャッチーで、岡山らしさもあっていいですね。

角ひろみさんプロデュースで、私が演出で入り、文士劇をやる予定です。文士劇というのは昔からある、作家本人たちが演じるお芝居です。今回、あまり表に出ないような人も含めて、約20人以上の劇作家が集まって、平田オリザさんの鶴屋南北戯曲賞受賞作『日本文学盛衰史』という、文豪たちがいっぱい出てくるお芝居を劇作家たちで読んでみようという企画です。ふだん「先生」と呼ばれるベテランの方も、ある種、舞台上に晒されるような感じで、クオリティはあまり保証できないかもしれませんが(笑)、きっと面白いものになると思います。

それから、初日にミュージカル俳優さん呼び、有名なナンバーを歌っていただき、ミュージカルの作詞、訳詞について考えるイベントを、開会式とセットでやる予定です。「アナと雪の女王」の翻訳をされオリジナル作品も多数手がけている高橋知加江さん、「この世界の片隅に」などの演出で菊田一夫演劇賞を受賞された上田一豪さんに加わっていただく予定です。今までの大会では、ミュージカルの企画はあまりやってこなかったのですが、やはりとても人気です。岡山でも市民ミュージカルが盛んだと伺っています。

フェスティバルのプログラムは、大きくいうとリーディングなどの見ていただくものと、シンポジウムのような知る、考えるもの、それから体験型のものもたくさん用意しています。劇作家協会ではここ数年、戯曲をデジタルアーカイブして、ネット上で誰でも読める仕組みをつくらせているのですが、そういう台本を集まって声に出して読んでみようという企画もあります。どなたでも参加して、演じる体験ができるような企画です。高校演劇の先生がの企画も考えています。

――最後に、このフェスティバルに関心をもちたい皆さんに、メッセージをお願いします。

ふだん演劇を見ない方にも、気軽にふらっと来ていただけたらうれしいです。どんな世代の方にも、何かしら興味を持って楽しんでいただける、敷居の低いフェスティバルにしたいなと思っています。これを機に、演劇にふれる人が一人でも増えたらいいな。もちろん、より深く演劇を知りたいという方向けの企画も用意しています。

今回、企画の数を絞って、なるべくみんなで同じものを見たり、集まったりできる時間をもてるようにしました。交流できる場をホワイエにつくろうと思っただけで、劇作家たちにも気軽に話しかけてください。私も会場をふらふらしていますので(笑)、みなさんとお会いできることを楽しみにしています!



2019年大分大会企画「シンポジウム『みんなで劇場へ行こう〜アクセシビリティの可能性〜』」



菅原直樹 (撮影: 草加和輝)



河合穂高



角ひろみ

Let's enjoy  
the summer vacation!

## 夏休みに集え！ 子どもと舞台芸術を 楽しもう

2025年の夏のハレノワでは、子ども向けの公演やイベントを多数企画しています。劇場を子どもたちが楽しく集える〈広場〉に見立て、舞台芸術に触れたり、ものづくりにワクワクしたりできるコンテンツをご用意。この機会にハレノワを訪れて、親子で夢中になる時間をお過ごしください。

### ハレの輪子どもフェスティバル

0歳から楽しめる！あそびや子ども向け舞台も！  
親子でハレノワに集まる2日間

ハレノワでは、NPO法人岡山市子どもセンターと連携して「子どもと舞台芸術」に特化したプログラムを毎年開催することになりました。「あそび」は子どもにとって大切な栄養源。あそびと舞台芸術を体験することで、豊かな心と元気な身体を育むことのできる多種多様なプログラムをご用意しています。今年の開催は、7月12日（土）・13日（日）の2日間。中劇場では、主に子どもが対象の演目『カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語』を上演。アートサロンでは、12日（土）は身近な材料を使って自由に遊べる「あそびの広場」、13日（日）は11時と14時の2回公演で、0〜24カ月の子どもが楽しめるベイビシアター『かぜのうた』を予定しています。また館内の窓ガラスをキャンバスに、マスキングテープを自由に

貼り付けできる「マステアート」も開催。両日10〜12時にご参加いただけます。アーティストと子どもたちが一緒に仕上げた作品は、9月2日（火）まで展示される予定。複数の劇場空間を持つハレノワの特性を活かした多彩な企画をぜひ親子でお楽しみください。

### 人形劇団プーク×ソフィア人形劇場（ブルガリア）国際共同制作公演 『カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語』

日本とブルガリアのアーティストが手がけた  
2つの文化と言語が融合する人形劇

7月12日（土）、13日（日）の「ハレの輪子どもフェスティバル」で上演される『カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語』は、1929年に東京で創立した人形劇団プークとブルガリアのソフィア人形劇場との共同制作公演です。両劇団の交流は1958年には始まり、2017年にブルガリア大使館からの依頼を受けて国際共同制作の企画が立ち上がりました。2018年に東京のプーク劇場にて同作品を初演。その後はコロナ禍で度重なる公演延期の困難に見舞われながらも、2023年に日本国内の4劇場で再演ツアーを果たしました。今年の夏、満を持して日本全国14カ所をめぐるツアーを敢行。岡山ではハレノワの中劇場を舞台に、文化も言語も異なるふたつの国のアーティストが作り上げた人形劇が上演されます。物語の主人公は港で暮らす黒猫ゾルバ。ある日、重油まみれになった瀕死のカモメが命をかけて卵を産み落とし、ゾルバはその小さな命を託されます。ゾルバは大佐、秘書、博士……といった個性あふれる仲間とともに、ひな鳥に「飛ぶこと」を教えるため奮闘。小さなカモメと港に住むドラ猫たちとの間に生まれる深い愛情と旅立ちの物語が描かれます。種族を超えた信頼関係は、「人間とはどうあるべきか」というシンプルな問いを提示。日本語とブルガリア語という互いの母国語での掛け合いが、作品のテーマをより一層際立たせます。さらに本作品では、物語だけでなくアートワークも見どころのひとつ。猫たちはレリーフに近いシンプルなお面とスプリングチューブで表現され、走ったり飛んだり踊ったりと自在に伸縮することで予想を超えた表情を見せてくれます。一見無機質な人形が躍動することで、だんだんと猫そのものに見えてくるという人形劇ならではの面白さも魅力。生演奏の音楽やダンスも物語を盛り上げる、新感覚の人形劇に期待が高まります。

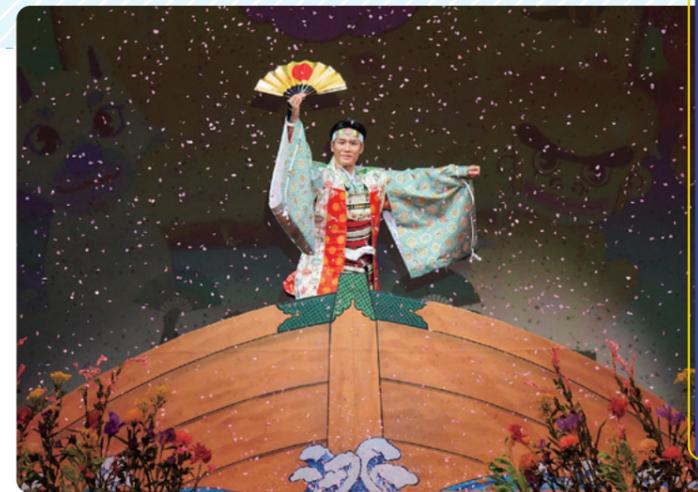


撮影：あがた・せいじ



撮影：あがた・せいじ

### おとぎのすけ 御伽ノ介絵巻『桃太郎』



日本舞踊家、落語家、クラシックの音楽家が織りなす  
新感覚の『桃太郎』

8月3日（日）に中劇場で上演されるのは、舞踊劇『御伽ノ介絵巻「桃太郎」』。作品は誰もが知る日本昔ばなし『桃太郎』。落語家による語り部、日本舞踊家による舞い、そしてピアノとバイオリンが奏でるクラシック音楽というジャンルを

超えたコラボレーションで舞台を彩ります。本作が目指すのは、伝統芸能である日本舞踊や落語に親しみを感じてもらおうこと。古典芸能の世界を『桃太郎』の物語を通してわかりやすく表現します。第1部では日本舞踊家・梅川杏ノ介と落語家・三遊亭鳳志がそれぞれの伝統芸能の魅力や楽しみ方を解説。第2部では約50分で『桃太郎』を上演します。日本舞踊家が主人公・桃太郎を演じ、犬、猿、雉といった登場人物はプロジェクションで投影。舞いの躍動感とアニメーションの臨場感、クラシック音楽の壮大さが相まって、舞台はまるで飛び出す絵本のように。子どもも大人もワクワクしながら伝統芸能に触れられるステージと一体となった物語の世界に没頭してみませんか。



### 御伽ノ介絵巻『桃太郎』

8月3日 13:30開演 中劇場  
出演▶梅川杏ノ介、三遊亭鳳志、朝来桂一、林紋子

公演詳細・チケット購入はP15へ



ハレの輪子どもフェスティバル  
人形劇団プーク×ソフィア人形劇場（ブルガリア）国際共同制作公演  
『カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語』  
7月12日 18:00開演・13日 14:00開演 中劇場  
原作▶ルイス・セプルベダ 演出▶カティア・ペトロヴァ  
美術▶マイヤ・ペトロヴァ 音楽▶スタン・ロヤノフ“Ya-Ya”

公演詳細・チケット購入はP15へ

# 河合穂高 × 田辺 剛 夜の森が映し出す不安と救い 「黄色の森」が描く劇世界

岡山を拠点に活躍する河合穂高さんの戯曲『黄色の森』が、京都の劇団「下鴨車窓」の田辺剛さんの演出で初上演。本作への想いと、奥深きその世界観について伺いました。

——『黄色の森』は田辺さんが講師を務める戯曲講座が出发点となったそうですね。

田辺 もともと、岡山で開催された「NPO法人アートファーム」主催の戯曲講座で5年ほど講師を務めたのがきっかけです。同講座は2016年度で終了しましたが、最後の年に彗星のごとく現れた生徒が河合さんで、私が担当していた戯曲ワークショップ「月いちリーディング」の参加者としてもご縁があったんです。岡山の講座の後は、私が代表を務める劇団「下鴨車窓」の主催でオンラインの戯曲講座を立ち上げることになり、そこにも引き続き参加していただきました。

河合 「月いちリーディング」で本作の原型となる『深海魚の森』をディスカッション

不安といった告白が、森に潜む不穏な気配とシンクロしながら物語が進みます。シンプルな構成で、観る人の想像力をかきたてる作品ですね。

河合 子どもの頃、父がよく山に連れて行ってくれました。山中で過ごす恐怖感がずっと記憶に残っていて、そこから森を描くという着想に至りました。焚火を囲む中で生まれる本音の語りや、自然がもたらす威圧感を設定に入れました。物語に登場する「黄色い飛行船」は、漠然とした不安や閉塞感を象徴するもの。はつきり正体が見えない恐ろしさが何層にも重なる中で、三人がお互いの存在と想いを確かめ合う。混沌とした社会にあって人間の強さやつながりの大切さに期待を込めました。個人的にはワンカットで展開するのも新たな挑戦のひとつです。

の題材に取り上げていただきました。そこで「もう一度書き直そう」という気持ちになり、戯曲講座で田辺さんにアドバイスをいただきながら練り直しました。田辺さんは聞き上手で、やりたいことを引き出すような提案をくださるんです。

田辺 『黄色の森』はすでにできている状態から、目指す方向にブラッシュアップすべく議論や推敲を重ねました。私は作品づくりで抱える悩みや霧が晴れるようサポートしつつ、作品の核心部分や河合さんの狙いを上手く表現するための後押しをする役目でした。

——『黄色の森』は、山に迷った三人の女性が一夜を過ごす中で繰り広げる会話劇が軸となっています。テロに巻き込まれた苦しみやコロナ禍で感じた社会への

田辺さんは本作をどのように捉え、舞台でどう表現しようと考えていますか？

田辺 彼女たちの置かれた状況や森の存在感が次第に大きくなり、森が精神状況を写し出す鏡にもなります。人間ドラマだけではなく、モノや場所のアプローチで導いていくユニークな作品ですね。客席が舞台を囲うようにして、観客も暗闇の森を目の当たりにできるように仕掛けを考えています。不穏な場面をどう表現するかが課題ですが、舞台を囲む観客が森のような存在でもあるので、見る側が物語の当事者となって没入できる世界観を演出したいです。

河合 登場人物を取り巻くモノや環境が大いに語る作品だと思います。田辺さんと長い時間をかけて育てた作品なので、

今回の舞台化は特別感があります。舞台芸術としては未知数なので、とにかく本番が楽しみです。

——登場人物が研究について語るエピソードは、歯科医療研究者の肩書を持つ河合さんならではの描写です。劇作家であり研究者という異色の経歴に至ったきっかけは？

河合 高校時代、恩師に演劇の台本を書くよう勧められて演劇に興味を持ちました。歯科医の家系に生まれて自然と歯学の道に進み、いつしか研究職の楽しさが人生で分かち難いものになりました。事実を積み重ねる研究と、舞台上でフィクションをつくる劇作家の両面があってこそ、自分なりの人間らしさを表現できていると実感します。基本的には自分が見たいものや好きなテーマを書くのが大前提。脚本は演劇の種であり、舞台上で多彩な生物に進化していく面白さこそが戯曲を選んだ理由です。

田辺 河合さんは研究で得た知見を単なる医療情報にせず、作品に編みこませていきながら、物語として成立させられる技量があります。異色の経歴が豊かな個

性となっていて、今後も注目されるべき存在だと思います。最後に、ハレノワ公演に対する期待をお聞かせください。

田辺 今回の企画はハレノワでの上演が決まったことで実現しました。いわば始まりの劇場として、岡山の舞台を記憶に残るものになりたいと意気込んでいます。小劇場のコンパクトで自由な空間は、今回の演出にとてもマッチしていると感じます。

河合 学生時代から10年以上上演劇活動が続けてきて、ハレノワで自分の作品が上演されることに感動しています。岡山で演劇や芸術の輪を広げる場所になるよう期待していますし、私もそこにコミットできればうれしいですね。

河合穂高×下鴨車窓  
『黄色の森』  
10月11日 18:00開演  
12日 14:00開演 / 18:00開演  
13日 14:00開演  
小劇場  
作▶河合穂高  
演出▶田辺剛 (下鴨車窓)  
公演詳細・チケット購入はP14へ



「聞き手」 守安涼 / 「構成」 溝口仁美



かわい ほんたか  
河合 穂高 (右)  
岡山大学で頭頸部癌の研究を行う現役の癌研究者。科学的知見を取り入れた創作に取り組んでいる。2022年せんだい短編戯曲賞大賞、2023年岡山芸術文化賞準グランプリを受賞。

たなべつよし  
田辺 剛 (左)  
劇作家・演出家。京都市在住。劇団「下鴨車窓」代表。劇作家協会新人戯曲賞など複数の受賞歴がある。子ども向け舞台作品も手掛ける。近年は講師を務める戯曲講座から戯曲賞の受賞者を多数輩出し定評がある。

第6回

NYから牛窓へ拠点を移し  
「観察映画」をつくり続ける

【話し手】映画作家 想田 和弘

【聞き手】渡辺 弘



岡山芸術創造劇場ハレノワの渡辺弘劇場長兼プロデューサーが岡山の芸術文化のさまざまな分野で活動している人たちに、とっておきの話を伺う「ハレノワダイアログ」。今回は、ドキュメンタリー映画作家として、平田オリザ氏が率いる劇団青年団を描いた『演劇1』『演劇2』をはじめ、現在拠点を構える瀬戸内市牛窓を舞台にした『五香宮の猫』など話題作を発表し続けている想田和弘さんです。

**渡辺** 想田監督の作品を初めて見たのは『演劇1』『演劇2』。5時間42分を渋谷で観て、ビックリしました。よくあそこまで観察されていますね。

**想田** 平田オリザさんがすごくオープンな方で、自分のポリシーにもものすごく忠実。だから一度決めてOKとなったら、とことんOK。「完成する前に見せてもらえるんですか」と聞かれたので「普通は見せていません」と言ったら、「見せないんだったらそれなりに振る舞うし、見せてくれるんだったらそれなりに振る舞いますよ」と。「じゃあ、お見せしますのでそれなりに振る舞ってください」とお願いしたら、何でも撮らせてもらえて。約束通り完成前に見ていただきましたが、個人情報が出ていたショット以外のカットはなかったです。

**渡辺** フレデリック・ワイズマンの影響を受けたそうですが。

**想田** テレビ番組を作っていて、その予定調和で説明過多な作り方やスタイルに疑問を感じていたころ、ニューヨークの映画館で公開されたワイズマンの『ドメスティック・バイオレンス(DV)』を観て衝撃を受けたんです。とにかく「すごい生だな」と。ナレーションもテロップも

ないので、観客は自分の観察眼を働かせて見ることを強いられる。しかしだからこそ、能動的に作品と向き合える。あと、ワイズマンほどのくらいリサーチをしたうえで『DV』を撮ったのかなと思いつながらインタビュアーを読んでいたら、「撮影前にドメスティック・バイオレンスについてどれくらい知っていましたか」という質問に、「ほとんど知りませんでした」と答えている。僕は「ああ、これだ」と思ったんです。

**渡辺** 事前にリサーチしないんだ。

**想田** ぶっつけ本番でどんどん撮っていく。だから発見があるんだと。僕は雷に打たれたようになって、図書館にある彼の映画を全部観て研究しました。それで僕も同じような手法でドキュメンタリーを作りたいと思ったんです。

『選挙』(2007年)はその実験のような作品です。リサーチも台本もなしで現場に入って、カメラを回しながらよく観察して、その結果気づいたことを映像に翻訳していく。すると、予想外のことがどんどん撮れて、すごくおもしろかった。起きたことを受け入れて、その波に乗りながら映画を作っていく。自分の想像力を越えたものが撮れることを確信したんです。

**渡辺** それが「観察映画」なのですね。しかし、それだけで食べていくのは難しいでしょう。

**想田** 幸運にも、映画だけで生活してまず。僕らには「観察映画の十戒」という10のルールがあります。その10番目が「製作費は自分で払う」。コストは自分で全部払って、完成までは誰の世話にもならない。完成して初めて配給会社や映画祭などいろんな人に見せて、一緒にやりたいというところと組む。そうやって著作権を確保し独立性も保ちます。

**渡辺** 映画祭にも多く出されていますね。

**想田** 最初は大変でしたよ。デビュー作の『選挙』のときには、最初20カ所ぐらい応募したんですが、すべて拒絶されて。あきらめかけていたところに、突然ベルリン国際映画祭から招待されました。「この

話は本当かな」と耳を疑いましたね……。  
**渡辺** その後いろんな所からオファーが。  
**想田** 本当にラッキーでした。どんなものもそうだと思うけど、映画はその作品が面白いだけではだめで、かなり運にも左右されます。

**渡辺** 牛窓にいられたいきさつは？  
**想田** 2020年に『精神0』という映画のプロモーションで東京に来ていた時にコロナ禍が始まり、ニューヨークに帰れなくなっちゃって。東京にカンヅメになっているのがすごくきつくて、妻(柏木規与子)の母の出身地である牛窓に逃げよう、と。以前『牡蠣工場』(2015年)と『港町』(2018年)をここで撮っていたんです。家を貸してもらえりし、長逗留もできる。で、避難してこの部屋で海を眺めながら昼寝していたら、「ここにずっと居たいな」と。柏木と相談して、27年住んだニューヨーク生活に終止符を打つことになりました。

**渡辺** そうしてここに居着いたら、猫の目線みたいになっちゃった。最新の映画『五香宮の猫』は、牛窓の猫が主役で、近くの神社(五香宮)が舞台です。



『五香宮の猫』©Laboratory X, Inc.



そうだ かずひろ  
**想田 和弘**  
映画作家。1970年栃木県足利市生まれ。東京大学文学部を卒業後渡米し、ニューヨークのスクール・オブ・ビジュアル・アーツ映画学科卒業。NHKなどのドキュメンタリー番組を手がけた後、「観察映画」と呼ばれる手法で2007年に『選挙』を制作し、ベルリン国際映画祭などで高い評価を得る。その後も『精神』(2008年)、『演劇1』『演劇2』(2012年)、『牡蠣工場』(2015年)、『港町』(2018年)、『精神0』(2020年)などで多くの賞を受賞。新型コロナウイルス禍以後、ニューヨークから瀬戸内市牛窓に拠点を移し、最新作『五香宮の猫』(24)を発表している。著書に『なぜ僕はドキュメンタリーを撮るのか』(講談社現代新書)、『演劇VS映画』(岩波書店)など。

**渡辺** しばらくはここに住むと。  
**想田** それはもう、筋金入りですよ。  
**渡辺** 私も監督と同じ栃木県の出身ですが、海なし県だから、海にはあこがれませんが、監督は岡山愛がすごいな。  
**渡辺** しばらくはここに住むと。  
**想田** それはもう、筋金入りですよ。  
**渡辺** 私も監督と同じ栃木県の出身ですが、海なし県だから、海にはあこがれませんが、監督は岡山愛がすごいな。



# イベント開催レポート

Harenowa Report

## おかやま文化芸術振興事業



### 1 『作品をつくるとは?』

現代美術作家 平子雄一と考える+つくるアートワークショップ

岡山出身の現代美術作家 平子雄一を講師に迎え、テーマの決め方やいかにテーマを作品に落とし込むかを体験するワークショップを開催した。

- 考えるワークショップ：1月18日(土)10:00~10:40
- つくるワークショップ：2月15日(土)10:00~17:00 練習室
- 展示：3月14日(土)~19日(木) 岡山駅東口地下エキチカ広場



### 2 『写真家 浅田政志とつくる“ハレの日”のワンシーン』

写真家の浅田政志が、岡山に縁のある参加者から“ハレの日”のエピソードを募集し、大劇場の舞台上で再現するプロジェクト。計15作品の写真が完成した。

- 事前説明会：1月15日(土)18:00~19:00
- 撮影会：2月23日(土)・24日(日) 両日9:00~21:00 大劇場
- オープニングトークショー：3月14日(土)19:00~19:40
- 写真展：3月15日(土)~30日(日) 9:00~20:00 ギャラリー



### 3 解体実験工房

「ピアノ・パーツ・ラボ - MUSICからARTへ-」

解説を聞きながらアップライトピアノを解体し、パーツを使って写真作品をつくるワークショップ。8,000近いパーツから、数多くの写真作品が生まれた。

- ワークショップ：2月11日(土)10:00~15:30 アートサロン
- 展示：2月15日(土)~3月1日(土) 9:00~20:00 ギャラリー



### 4 映画『目の見えない白鳥さん、アートを見にいく』

ベストセラー書籍『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』から生まれたドキュメンタリー映画を上映。関連企画では全盲の美術鑑賞者・白鳥建二をナビゲーターに迎えた美術鑑賞ツアーも開催した。

- 上映：3月15日(土)18:45~20:35・16日(日)17:05~18:55 シネマ・クレール丸の内
- 美術鑑賞ツアー：3月16日(日)13:00~15:00 ハレノワ内



©Hidemi Seto

### 1 CHINTAI クラシック・スペシャル ウクライナ国立バレエ『ジゼル』

日本で募った義援金を活用して2023年に新制作された古典の名作を上演した。

- 1月16日(土)18:30開演 大劇場



### 3 ミュージカルアカデミー発表会

『今届けたい SONG & DANCE』

舞台上で活躍する人材の育成を目的に2024年から始動。半年間で学んだ成果をお馴染みのミュージカルナンバーでお届けした。

- 3月1日(土)17:00開演・2日(日)13:30開演/17:00開演  
アートサロン



撮影：井上嘉和

### 5 MONO 第52回公演『デマゴギー・ジャズ』

劇作家・演出家・俳優の土田英生率いる劇団「MONO」による、デマや陰謀論をテーマとした新作舞台を上演した。

- 3月20日(土)14:00開演 中劇場



### 2 『小さい劇作家フェス vol.03』

岡山にゆかりのある劇作家が、岡山ならではの企画を発見することを目的に開催。劇作家3人による戯曲を基にした演劇3作品を上演した。

- 2月23日(土)13:00開演/17:00開演 小劇場



撮影：細野晋司

### 4 東京サンシャインボーイズ復活公演『蒙古が襲来』

三谷幸喜が主宰する「東京サンシャインボーイズ」30年ぶりの復活公演を、岡山出身の梶原善、甲本雅裕ら豪華な俳優陣で上演した。

- 3月7日(土)18:00開演・8日(日)13:00開演/18:00開演・  
9日(月)13:00開演  
中劇場



撮影：山口喜久義

### 6 ミュージカル「手紙」2025

東野圭吾の原作をミュージカル化。初演から再演を重ねて4回目となる今回は、村井良大、spiをはじめとする実力派のキャストで上演、感涙必須の舞台となった。

- 4月5日(土)14:00開演・6日(日)12:00開演 大劇場

ハレの輪子どもフェスティバル

人形劇団プーク×ソフィア人形劇場（ブルガリア）国際共同制作公演  
『カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語』

スプリングチューブの猫たちが、走る・飛ぶ・踊る！  
種族の違いを超え、深い愛情と信頼で結ばれたカモメと猫たちの物語

7月12日㊦ 18:00開演・13日㊦ 14:00開演 中劇場

原作▶ルイス・セプルベダ 演出▶カティア・ペトロヴァ  
美術▶マイヤ・ペトロヴァ 音楽▶ストヤン・ロヤノフ“Ya-Ya”  
料金▶全席指定 大人 3,500円/子ども（4～18歳）2,500円/親子ペア券 5,000円  
3歳以下は保護者1名につきお子様1名まで膝上無料。座席使用の場合は有料。

チケット好評発売中！

お問合せ▶NPO法人岡山市子どもセンター  
TEL 086-242-1810（平日10:00～17:00）

撮影：  
あがた・せいじ



【同日開催】  
マスキングテープアートや  
0歳から楽しめる  
ベイビーシアターも開催。  
親子でみて・あそべる2日間！



地域公共劇場連携事業

『りすん 2025 edition』リ・クリエイションツアー

芥川賞作家・諏訪哲史の実験小説を、  
天野天街が「エンゲキでしかできないアレコレヤにオモイキリ変換」した名作。  
天野天街逝去後、小熊ヒデジの演出により今、蘇る！

7月19日㊦ 14:00開演/18:30開演・20日㊦ 14:00開演 小劇場

原作▶諏訪哲史 脚色▶天野天街 演出▶小熊ヒデジ+天野天街  
出演▶加藤玲那、菅沼翔也、宮璃アリ  
料金▶全席自由 一般 3,000円/U24 2,000円

① 7月20日㊦アフタートークあり チケット好評発売中！



©羽鳥直志

御伽ノ介絵巻『桃太郎』

まるで飛び出す絵本！落語、日本舞踊、音楽、アニメでお届けする新感覚舞踊劇

8月3日㊦ 13:30開演 中劇場

出演▶梅川杏ノ介、三遊亭鳳志、朝来桂一、林紋子  
料金▶全席指定 一般 3,500円/U24 2,000円/U18 1,000円  
2歳以下は保護者1名につきお子様1名まで膝上無料。座席使用の場合は有料。

チケット好評発売中！



『みんな鳥になって』

世界の演劇シーンを牽引するワジディ・ムワドの代表作を上村聡史が演出

8月8日㊦ 18:00開演・9日㊦ 13:00開演・10日㊦ 13:00開演 大劇場

作▶ワジディ・ムワド 翻訳▶藤井慎太郎  
演出▶上村聡史 ヒストリカル・アドバイザー▶ナタリー・ゼモン・デイヴィス  
出演▶中島裕翔、岡本健一、岡本玲、那須佐代子、渡邊真砂珠、伊達暁、相島一之、麻実れい  
料金▶全席指定 S席 10,000円/A席 8,000円 チケット好評発売中！



公益財団法人岡山文化芸術創造ミュージカルアカデミー プレ公演  
「拝啓 ナイチンゲール様」

明治から昭和にかけて、看護を通して女性たちが自らの運命を切り開いた  
実話を基にしたフィクション

8月30日㊦ 17:00開演・31日㊦ 13:00開演/17:00開演 小劇場

原案▶田中ひかる『明治のナイチンゲール 大関和物語』（中央公論新社刊）  
脚本・作詞▶高橋知伽江 作曲・音楽監督▶深沢桂子 演出▶真鍋卓嗣  
出演▶ミュージカルアカデミー受講生 特別出演▶四宮貴久  
料金▶全席自由 2,500円 ※未就学児は保護者1名につきお子様1名まで膝上無料。座席使用の場合は有料。 チケット好評発売中！

おかやまアーツフェスティバル 2025

劇場で出会う文学vol.2 ～小川洋子×朗読×音楽～

昨年好評を博した「劇場で出会う文学」第二弾！

岡山出身の小説家 小川洋子の作品を、劇作家・演出家の角ひろみが演出する新作

9月2日㊦ 19:00開演 中劇場

上演台本▶小川洋子「ホタルさんへの手紙」(「すばる」2025.3掲載『劇場という名の星座』より)  
演出▶角ひろみ 出演▶二階堂和美 演奏▶福田悠一郎 (ヴァイオリン)  
料金▶全席指定 一般 3,000円/U24 2,000円/U18 1,000円 チケット好評発売中！



二階堂和美

PARCO Produce 2025

『ヴォイツェック』～ジャック・ソーンによるニュー・バージョン～

19世紀未完の戯曲がジャック・ソーン（ハリーポッター）の脚色、  
小川絵梨子（新国立劇場芸術監督）の演出により待望の日本初演！

10月3日㊦～5日㊦ 中劇場

原作▶ゲオルク・ビューヒナー 翻案▶ジャック・ソーン 翻訳▶高田曜子 上演台本・演出▶小川絵梨子  
出演▶森田剛、伊原六花、伊勢佳世、浜田信也/中上サツキ、須藤瑞己、石井舜、片岡蒼哉/  
富家ノリマサ、栗原英雄

① 詳細はホームページをご確認ください。https://okayama-pat.jp/event\_info/woyzeck/



河合穂高×下鴨車窓『黄色の森』

岡山を拠点に活躍する劇作家・河合穂高のせんだい短編戯曲賞受賞作品を、  
京都の現代演劇を代表する劇団「下鴨車窓」代表・田辺剛の演出により初上演

10月11日㊦ 18:00開演・12日㊦ 14:00開演/18:00開演・

13日㊦ 14:00開演

小劇場

作▶河合穂高 演出▶田辺剛（下鴨車窓）  
出演▶坂井初音、福井菜月（下鴨車窓）、高瀬川てら（劇団 ZTON）  
料金▶全席自由 一般 3,000円/U24 2,000円 チケット発売▶7月19日㊦ 10:00



下鴨車窓『旅行者』（2023、撮影：北川啓太）

※掲載内容は6月18日時点の情報です。今後公演内容や出演者等に変更が生じる場合がございます。 ※チケットの販売状況によって、完売もしくは残り僅かの場合がございます。

チケットの  
ご予約・ご購入

窓口|お電話



岡山芸術創造劇場ボックスオフィス TEL 086-201-2200

受付時間/10:00～18:00（休館日を除く）※詳細はホームページにて

岡山シンフォニーホールチケットセンター TEL 086-234-2010

受付時間/10:00～18:00（休業日を除く）※詳細はホームページにて

インターネット  
[24時間受付]



岡山芸術創造劇場/  
岡山シンフォニーホール  
オンラインチケット

https://piagettii.s2.e-get.jp/ocaticket/pt/



その他  
プレイガイド

イープラス eplus.jp/ファミリーマート  
チケットぴあ https://t.pia.jp/  
ローソンチケット https://l-tike.com/  
ぎんざやプレイガイド TEL 086-222-3244

※公演によって取扱いが異なります。詳しくは各公演の情報をご確認ください。

CHECK IT OUT !

## 11月公演のチケット情報公開!

### 「Disco on the planet」

ダンス×現代サーカス。瀬戸内オリジナルのクロスジャンル公演!

11月8日(土) 18:00開演 / 9日(日) 14:00開演 中劇場

演出・振付▶平井優子

出演▶堀田千晶、吉田亜希、本間紗世、目黒宏次郎、本城洸樹、土屋望、中川愛生

料金▶全席指定 一般 3,000円 / U18 2,000円 チケット発売▶8月9日(土) 10:00

### M&Oplays プロデュース 『私を探さないで』

昨年好評につき即完売した岩松了の新作舞台が今年も岡山に登場!

11月22日(土)・23日(日)祝 両日14:00開演 中劇場

作・演出▶岩松了

出演▶勝地涼、河合優実、富山えり子、篠原悠伸、新名基浩、岩松了、小泉今日子

料金▶全席指定 一般 8,500円 / U24 5,500円 チケット発売▶8月24日(日) 10:00

### BUNRAKU 1st SESSION 「曾根崎心中 天神森の段」

世界に誇る伝統芸能“文楽”と「となりのトロ」の美術監督・男鹿和雄のアニメーションが融合した革新的な舞台

11月29日(土)・30日(日) 両日14:00開演 中劇場

料金▶全席指定 一般 3,800円 / U18 2,000円 チケット発売▶8月2日(土) 10:00

#### ハレノワ休館日のご案内

2025年4月より年末年始以外の日程で休館日を設けることとなりました。  
ご迷惑をおかけしますが、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2025年の  
休館日はこちら



#### ハレノワ通信 [WA] VOL.9 2025年7月1日 発行

編集人 渡辺弘

〒700-0822 岡山市北区表町3-11-50

代表 TEL 086-201-8000

発行 公益財団法人岡山文化芸術創造  
岡山芸術創造劇場

ボックスオフィス TEL 086-201-2200 (10:00~18:00)

https://okayama-pat.jp/

制作・印刷 株式会社中野コロタイプ

編集協力 株式会社吉備人

記事・画像の転載・複写を禁止します。



岡山芸術創造劇場  
ハレノワ

お客様用の駐車場はございません \*近隣のコインパーキングや公共交通機関をご利用ください。

\*歩行困難者用の駐車区画あり。また、タクシーの降車と福祉車両の乗り入れが可能です。  
詳しくは施設担当 (086-201-8016) までお問合せください。

#### ハレノワ・メンバーズ登録受付中!

登録・  
年会費  
無料!

【特典1】いち早くチケットを購入できる

【特典2】インターネットから座席を選んでチケットが購入できる

【特典3】お得な情報をご案内

ご希望の方には公演情報や先行発売などのお知らせを  
メールマガジンにてお送りいたします。

詳しくはこちらから <https://okayama-pat.jp/member>



ハレノワの  
最新情報はこちら



Instagram



X



公式サイト



JR岡山駅からのアクセス【JR岡山駅より路面電車】  
東山行▶「西大寺町・ハレノワまえ」下車 徒歩約5分  
清輝橋行▶「大雲寺前」下車 徒歩約5分

岡山芸術創造劇場  
ハレノワ